

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県代表決定戦

2022年11月23日

会場: エントリオ(豊田合成記念体育館)

■女子決勝

豊川閣妙巖寺豊川学園豊川高等学校

3	25	第1セット	16	2
	16	第2セット	25	
	14	第3セット	25	
	25	第4セット	23	
	16	第5セット	14	

人間環境大学附属岡崎高等学校

佐野 (3年)	阿部 (3年)	先発メンバー	石塚 (3年)	山崎 (3年)
青木 (2年)	奥村 (3年)		谷口 (3年)	馬場 (3年)
山本 (3年)	松田 (3年)		カンポス (3年)	中山 (3年)
小嶋 (2年)	増田 (3年)	リベロ	大塚 (2年)	橋爪 (3年)

<戦評>

第2シードの豊川閣妙巖寺豊川学園豊川高等学校(以下豊川)が、第5シードから勝ち上がってきた人間環境大学附属岡崎高等学校(以下人環大岡崎)を3-2で破り、初めての頂点に立った。両チームとも死力を尽くし、最後の最後まで手に汗握る力強いラリーが続く名勝負であった。

第1セットは、終盤二度の大量得点を奪った豊川が先取した。特に14-15からライトから3本連続で決めた青木のスパイクがチームに勢いをつけた。さらに18-15からの5連続得点では、セッター奥村の見事なトスワークに、会場から嘆息が聞かれた。また、松田が相手の強打を3本連続で阻み、3本目でブロックポイントを決めた22点目のラリーも見事だった。

第2セットは人環大岡崎がカンポスの強打でペースをつかみ、序盤からリードを奪った。サーブも走り始め、3点以上の連続得点を四度奪って危なげなくセットを取り返した。

第3セットは、さらに人環大岡崎・カンポスの決定力が目立ち、このセットだけで9得点を上げた。対角のミドルブロッカー山崎も5得点と、センター線を生かすことのできた人環大岡崎が勝利に王手をかけた。

後がなくなった豊川は、第4セット、序盤からカンポスへのマークを強めた。他のアタッカーをノーマークにするほど徹底されており、これが功を奏して6-0とスタートダッシュに成功した。この場面では山本の2本のサービスエース、阿部の3連続アタックポイントなどが出て、崖っぷちの豊川が再び息を吹き返した。このセットは阿部が8本、佐野が6本のアタックを決め、山本と奥村がそれぞれ2本のサービスエースを奪った。

勝負の第5セット、6-8と2点ビハインドでのチェンジコートとなった豊川だったが、そこから3連続得点で逆転した。両チーム消耗戦の様相を呈し、二段トスをエースであるミドルブロッカーに繰り返し上げたり、フェイントで相手を揺さぶったりするプレーで得点に結びつけた。先にマッチポイントに達したのは人環大岡崎だったが、豊川は松田の強打でデュースに追いつくと、相手のミスで逆王手、最後は松田が相手のレフトをブロックし、起死回生の3連続得点で全国大会への切符を手に入れた。

■作成者: 富田 崇